第19 号
（11 月）
2014 年11 月1日

七里ヶ丘こども若者支援研究所

それが社会参加だ！

住所：鎌倉市七里ヶ浜東2－31－12
携帯：090-7212-4055
メール:qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp
編集長　　新舛秀浩
発行編集責任者　滝田衛

9月23日交流会イベント「2020年はみんな（地域）で安心して楽しむ子育てを！」の感想より

「自らの居場所」　島根三枝子さん（会員）

さまざまな形で、子どもたちの集まる場を提供している団体を紹介するイベントがありました。活動の手段は異なるのですが、子どもたちの居場所を提供しているということではみな同じです。『もっと多くの人に利用していただきたい』とみなさん願っていました。

川辺悟史さん撮影

私たちの力はとても小さいし、できることは限られています。『ここがあって良かった』という人が居ればそれだけでうれしくなります。だからこそちゃんと丁寧に向き合うことが大切になります。丁寧に向き合うということは子どものこころを感じ、親の想いを受け止めることです。相手の立場になって、感じたときには自分のこころが痛むこともあるでしょう。ですが伝わるということ、交流するということはそういうことなのだと思うのです。相手に辛さが伝わり、共感してもらえた時、どんなに救われるでしょう。立ち向かう勇気、生きる勇気までも得られるかもしれません。それで充分なのではないでしょうか。

私たちが何かをしてあげるのではなく、自分で考え歩んでいく力が湧いてくれば素敵です。あくまでもなんとかするのは自分です。そんな自分になるために『居場所』はとても大切です。素敵な出会いは豊かな社会になります。目の前に居るひとりを大切にしたいとつくづく思う集まりでした。　「現状を変えるのはあくまで自分。そのための居場所、出会いは豊かな社会」私自身こうして応援団という居場所から様々な出会い、それによりの人生が変化しています。私が主体的に居場所に参加した結果だと改めて感じた秀逸の文章です。（新舛）

「みんなで子育てしていく社会へ」　高島智子さん（会員）

9 月 23 日「2020 年はみんな（地域）で安心して楽しむ子育てを！」に発表者として参加させていただきました。子育てに関する団体のいろいろな方面よりお話が聞けてとても良かったと思います。

川辺悟史さん撮影

一団体一団体の真剣な取り組みを聞くことができ、その中でぶつかっていく壁に試行錯誤しながら活動を続けている姿にも頭が下がりました。障がい児団体の「デイサービスあっぷっぷ」のサービスの向上が（長時間預かりなど）必ずしも親子にとっていいものなのか（親があきらかに家にいるのに）と悩んでいる反面、「ラクビースクール」のように親と子をまったく離して子どもの自立を促していく指導の仕方、この相反するような指導も子育ての中ではどちらも必要なことだと思いました。親子がしっかりくっついたり、時にはまったく離れたり、そして地域の力をかりたり、又行政のサポートも受けたりしながらみんなで子育てしていく理想の社会になったらいいなと思いました。又各団体の方々が「これからは横のつながりを深めて行きたいと意欲をもやしていたのもとても頼もしく思いました。私達「たすき塾」のような小さなボランティアにも多くの質問が出たのも正直驚きました。　「親子の距離間を測りながら、地域・行政の力を借り皆で子育てを」親子の距離感の正解はないと思います。同時に、必ず悩み、迷いが生じるでしょう。そこに地域・行政の力が加われば家庭の諸問題も解決の方向へとの向かうのではないでしょうか。（新舛）

コラム風 派遣労働法「改正」が論議される。教育・労働・納税の義務と生存権・選挙権・教育権の権利が憲法に明記されている。義務は「勉強して仕事を見つけ税金を納めなさい」との国家の強い目線を感じる。一方、生存権と「生活保護や最低賃金、リストラや派遣労働」、選挙権と「低投票率や政党助成金、議員特権と1票の格差」、教育権と「学力格差と資格社会、いじめ・不登校と集団主義」など、権利の劣化を実感。教育・労働・選挙権は“自己実現・社会参加”、生存権の神髄。冒頭の派遣労働、雇用者による人間の道具化であり、生存権の放棄を国家が是認したと言える。「改正」より、『廃止』の強い風を！　（滝田）

連載すぐそこにあること 11　「過去からの解放」

新舛秀浩

もしあのとき、もっと勉強しておけば志望校に入れたのかな。もしあのとき、せっかく転校したのだから中学校に行っておけば恋愛経験ゼロなんてことなかったのかな。もしあのとき、受験勉強ばっかしないで一つくらいバイトでもしておけば職歴ゼロで悩むこともなかったのかな。とあれこれ考えてもどうしようもないことを考えます。

過去に囚われてばかりの人生だったのですがアドラー心理学『嫌われる勇気』という本に出会い新しい考え方が持てた。その本には過去に原因があり今の自分があるのではなく、**今の目的があってコンプレックス等を自ら作り出していると書いてあった。**僕は救われたような気がした。具体的には、冒頭に書いたようにもしもあの時・・・とよく考えていた。この本に従えば、僕が様々な事が出来ない“言い訳”として、過去にしがみついていることになる。そんなふうに考えていた自分に気が付かなかったし、あの時違った選択肢をとっていれば、凡庸な人生じゃなく著名人のような人生だったのに！って思えるし、また暗に言ってることになる。すなわち**自分を誇示したいって言う目的は達成してるのでしょう。**おそらくね。なので、**自らが作ったコンプレックスなら、自らが消せる。つまり過去から解放されこれからを生きていける。**実際行動に移してみようと夜型生活から朝起床してみたのだが見事に三日坊主おまけに調子が悪くなってしまった(笑)けど、新しい視点・考え方を持てたことは事実で、ずいぶん気の持ちようというか、これからの生活が楽になるような気がする。

10 月 26 日こども若者応援団会議　「9 月 23 日イベントの総括！」(代表:小幡沙織)

こんにちは。小幡です。9 月に行われた子どもに関わる団体同士の交流イベントは多くの方に足を運んで頂き、楽しい時を過ごすことができました。ありがとうございます。子どもの育つ環境について話し合う場面ではどのような子育ち環境にしてゆきたいかについて議論がなされました。キーワードとして「居場所」「つながり(ネットワーク)」「行政との連携」の大切さなどが述べられました。次回イベントに活かすと共に、行政へのはたらきかけもしっかりとしていきたいと思います。10 月の定例会では次回イベントの計画等を話し合いました。詳細は決まり次第紙面でお伝えいたします^^

それぞれの風

子ども若者に会っていると、誠実に自分を責め続ける日々を過ごしていると実感する。「○○します」と言わなければいいのに、言ってしまう子ども若者がいる。No！と言えず、Yes！！と言ってしまい、「言ったことができない」と自分を責める、これが事実だ。「約束が守れない」「言ったことをやらない」と大人は責めるが、「約束」「言わせる」強制力が社会にある。「言わせて約束させる」、叱咤激励し子どもを追い込むことが大人の役割と誤解している社会がある。迷ったり悩んだりしてはいけないのではなく、不安は尽きないのが当たり前なのだ。悩みを理解しあい不安を共有し、共に歩むことから人は先を見ることができる。　Mさんへ　　滝田より

【ご参加ください】
応援団会議は横須賀市市民活動サポートセンター午後 2 時～4 時。会員の自由な集まりです。

11 月研究所開設日程(駐車場あり)　相談時間:10 時～16 時　土日訪問はご相談

3 日(月)	祝日	17 日(月)	相談
6 日(木)	相談　予約済み	20 日(木)	相談
10 日(月)	相談　予約済み	24 日(月)	祝日
13 日(木)	相談	27 日(木)	相談
16 日(日)	応援団会議　午後2時		